

「惻隠の情」が働く 豊かな社会を

武士道協会 理事長

塩川正十郎

武士道というと、侍たちの勇ましい姿や合戦のシーンをイメージする人が多いかもしれませんが。戦時中に学生時代を過ごした私たちは当時、忠を尽くして国に報いる、つまり「尽忠報国」に生きる事が武士道だと思っていました。ところが私は、戦後になってさまざまな勉強を重ねる中で、武士道とはそのような極端な考え方ではなく、人として守り行なうべき道、すなわち「人倫」とは何かを教えてくれる道徳的な規範だということに気付いたのです。

私が何度も読み返した新渡戸稲造の「武士道」には、武士道とは「武士の掟」、すなわち武人階級

の「武士道」として実践する」とい

うのは、自分の言動を日々振り返り、反省するた

めの基準として、武士道を活用することです。たとえば、一日の終わりに「武士道は礼節を重んじ、恥を知る」「武士道憲章」第八条、という一節を思い浮かべ、「自分は今日こんなことをしたけれど、はたして、あれでよかったのだろうか」と、自問自答してみるのです。

ちなみに、武士道協会では十カ条からなる「武士道憲章」を定めていますが、中でも私は「武士道は惻隠の情を心に蔵する」(同第七条)という言葉に、武士道の神髄が表れていると思います。

「惻隠の情」とは、単なる「哀れみ」の心ではな



▲しおかわ・まさじゅうろう
1921年、大阪府生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。'67年、衆議院議員初当選。以後11回当選。運輸大臣、文部大臣、内閣官房長官、自治大臣・国家公安委員会委員長、自民党憲法調査会長、税制調査会長、総務会長等を歴任。2001年、小泉内閣誕生とともに財務大臣に就任。'03年、政界引退。現在、東洋大学総長をはじめ、数々の要職を務める。

級の身分に伴う義務である」(『武士道』矢内原忠雄訳・岩波書店)と書かれています。少々難解ですが、私はこの武士道精神を、もっと平易に、肌で実感できるものとして考えていきたいと、つねづね思っていました。

そんな矢先、衆議院議員の小野晋也氏から「武士道を日常の行動原理として実践するため、勉強会を作ろう」とのお誘いを受け、NPO法人武士道協会の理事長をお引き受けしたわけです。

武士道の神髄は「相手を思いやる心」

「武士道を日常の行動原理として実践する」とい

く、相手の「本当の心」を推し量ろうとする気持ちです。つまり、その根本には「相手を尊重し、理解しよう」という姿勢が不可欠なのです。ところが、日本人は過度の競争社会の中で利己心ばかりを肥大化させ、相手を尊重し、理解することの大切さを忘れてしまったように思います。そんな今だからこそ、私たちは再び武士道に学び、「惻隠の情」が働く社会を築き上げなければならぬと思うのです。

失われた自立心を取り戻そう

しかも、最近の世相をみると、自分本位の生活に甘んじ、公共精神を失いかけている日本人の姿に、非常に危機感を覚えます。

実際、倫理・道徳観の希薄化や社会規範の欠如を背景に、「振り込め詐欺」や「耐震偽装」「食品偽装」などの悪質な事件・犯罪が跡を絶ちません。とはいえ、「武士道は公正にして信義を守る」(同第三条)という武士道精神が広く理解されていれば、こうした事件も未然に防ぐことができたはず。

さらに、日本人の自立心の欠如も深刻です。

一例を挙げれば、年金問題について、社会保険庁や政府に大きな責任があるのは確かですが、「私の年金はちゃんともらえるの？」といった不満の声が聞こえてくるばかりで、「自分にできることなら何でもいから一所懸命に働き、年金だけに頼らないでやっていこう」という気概あふれる人に出会うのは稀です。

何やら、日本全体が「もらえるものは大歓迎、でも自己負担が増えるのは絶対に嫌」という雰囲気になっていて、「他人に頼らず、自己責任で自分の人生をよりよいものにしていこう」という意識が希薄になっているようです。

武士道の中に「生き方」の答えがある

武士道憲章の第一条に、「武士道は志を尊ぶ」とありますが、ある意味で、現代の日本人に最も欠けているものが、「志」かもしれませぬ。

「志をはたして、いつの日にか帰らん 山は青き故郷 水は清き故郷」(作詞・高野辰之)

この文部省唱歌『故郷』の三番の歌詞にあるように、かつて日本人は誰もが、志を果たすために一所懸命に働き、故郷に錦を飾ろう、という気概や矜持を持っていました。

しかし、日本人は終戦後の飢えと貧しさから脱却するために、生活努力のすべてを経済に優先させざるを得ませんでした。その結果、日本は見事に高度経済成長を達成したものの、成功体験に酔い、「もので栄えて魂で滅ぶ」という状態に陥ったのです。

それ以降、バブル崩壊を経たあとも、日本人の「心の砂漠化」は続いたまま。

だからこそ、私たちは今、いたずらにGDP(国民総生産)の大きさを追うのではなく、一人ひとりが互いに「豊かさ」を享受する社会を目指して、生き方を変えていく必要があるのです。

日本人が忘れてしまった、逆境をもつともせず生き抜く逞しさや正義感、真つ直ぐで潔い心などを今に伝える武士道が、その確かな道しるべになるものと、私は信じて疑いません。